

## TRAb 陰性であったが TSAb 検査の追加によって早期に診断し得たバセドウ病の一例

◎中野 正祥<sup>1)</sup>

兵庫医科大学医学部 臨床検査医学講座<sup>1)</sup>

【症例】20歳代女性

【現病歴】

潰瘍性大腸炎に対する定期通院中に FT3 高値を認めて精査加療目的で当院紹介受診となった。

【来院時現症】

体温:36.6°C、脈拍:87bpm、血圧:94/60mmHg、甲状腺腫大/圧痛なし

【血液検査結果】

Alb:4.3 g/dL, AST:35 U/L, ALT:38 U/L, Cre:0.54 mg/dL, BUN:9.5 mg/dL, Hb:11.7 g/dL, MCV:86 fL, Plt:35.6 万/μL, WBC:5790/μL, TSH:0.048 μIU/mL, FT3:4.28 pg/mL, FT4:1.29 ng/dL, サイログロブリン:11.6 ng/mL, TgAb:335 IU/mL, TPOAb:検出感度以下, TRAb:検出感度以下

【経過】

当院初診時の血液検査において FT3 軽度高値および TSH 低値と甲状腺機能亢進症の状態にあるが、FT4 は基準範囲内であり TRAb は陰性であった。一方で TgAb が高値であり橋本病による一過性の甲状腺機能亢進が鑑別として

挙がるが超音波検査においては甲状腺の大きさ・内部エコー・血流に有意所見は認めなかった。4週間後の再診時にも FT3 高値と TSH 低値は持続しており TSAb を測定したところ 409 %と高値であったためバセドウ病としてチアマゾール(MMI) 5mg で治療開始とした。治療開始3週間後に FT3 値は基準範囲内となり、TSH 値も改善傾向となった。

【考察】

本症例は TRAb 陰性であるが TSAb のみ陽性でバセドウ病診断となった一例である。本症例は初診から7週間後時点においても TRAb 測定が行われているが検出感度以下であった。MMI は少量で開始したが治療反応性は良好であり、その後の TSAb 値も低下傾向にある。初診時に TRAb 陰性でありエコー下での血流亢進も認めなかったため無痛性甲状腺炎との鑑別が困難であったが、早期に TSAb 検査を追加することによって早期診断できたことが良好な経過につながったと考えられる。